



白樹

HAKUJU

白樹会だより 第29号

70周年記念号

テーマ「道」

山梨県立大学
池田キャンパス

北新町校舎時代
1953年昭和28年4月～1970年昭和45年9月



富士見校舎時代
1970年昭和45年10月～1977年昭和52年3月



池田校舎時代
1977年昭和52年4月～2001年平成13年3月



最新情報はホームページで随時更新しております
住所変更はこちらからよろしくお願いいたします



会長あいさつ ～70周年に寄せて～



山梨県立大学

看護学部同窓会「白樹会」会長

山梨県立高等看護学院

看護第1学科29期生・保健学科30期生

山下 清子

皆様におかれましては、日頃から白樹会活動に御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。また、母校での学びを礎に、保健医療福祉及び教育など幅広い領域において、命と暮らし、健康を支える活動に御尽力いただき重ねて厚く御礼申し上げます。

公立大学法人山梨県立大学看護学部同窓会『白樹会』は、本年度で設立70周年を迎えました。そこで、今年の広報誌は70年という歴史を大切に、今まで歩んできた道を振り返るとともに、今後の歩む道、未来を考える機会になればと考え、テーマを『道』としました。

白樹会の歩んできた道は、昭和28年に開設した山梨県立高等看護学院をもとに昭和30年に設立され、以来、山梨県立看護短期大学、山梨県立看護大学、そして現在の山梨県立大学看護学部に変遷しました。会員数は令和7年4月1日現在で5,354人となっています。また白樹会という名称は、県立高等看護学院時代に敷地内に植えられていた白樺の木に由来しています。

過日、母が「自宅を整理していたら懐かしい写真が出てきたのよ。」と私の学生時代の写真を手渡してくれました。その中の1枚がこの写真です。40年以上前の戴帽式の白衣姿、しかも白樹会の由来となった、今はなき白樺との写真に、懐かしさや看護職を目指した志を思い出すとともに、同窓会とのご縁を実感



しました。また、今までの保健師としての歩みを振り返り、これからの人生を改めて考える好機会となりました。皆様もこの機会に、母校での思い出や看護への道を志した原点を振りかえっていただくとともに、今後の同窓会活動にもご参加いただけると幸いです。

結びに、70年という長きにわたり白樹会活動にご尽力いただきました歴代の会長を始め、役員や事務局など関係者の方々、また活動を支えていただいた会員の皆様に、心よりお礼を申し上げます。私も、諸先輩方の創り上げてきた活動のバトンを次世代につなげるべく努めて参る所存ですので、引き続き皆様の御協力、御支援をお願い申し上げます。

共に歩んできた「道」



山梨県立大学

看護学部同窓会「白樹会」事務局長

山梨県立高等看護学院

看護第1学科32期生

横内 理乃

日頃より、同窓会活動に対するご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年度、同窓会は設立70周年という大きな節目を迎えました。このような意義深い年に、事務局

長として携わらせていただけることに、深く感謝申し上げます。

看護の道を歩みはじめた学生時代、苦楽を共にした友と励まし合いながら過ごした日々が、私の原点です。卒業後も、さまざまな職場で良き先輩に巡り会い、悩んだときには相談できる仲間にも恵まれ、支えられながら今日まで歩んでくることができました。

この「道」は、決して一人では歩めなかったものであり、多くのひととの出会いや絆に育まれてきたものでした。看護の現場での喜びや苦悩、人生の節目に立



入会ガイダンスで在校生と一緒に

光さす未来への道



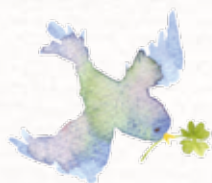
山梨県立大学 理事長・学長

早川 正幸

このたび白樹会創立70周年という記念すべき節目にあたり、心よりお慶び申し上げる次第です。今日に至るまで、皆様が幾多の道程を歩み続け、築きあげられた歴史に深い敬意を表します。

めまぐるしい社会の変動、医学の進歩、その中で求められる医療看護をどう捉え、自らがどのように成長すべきかを常に念頭におかれ、歩んでこられた道は、実に様々であったことでしょう。その道の原点に、この学び舎があります。ここで育まれた知性と感性は、時を経て色あせることなく、それぞれの人生を支えてきたことと思います。

これまでの歩みを振り返りながら、同じ道を別の方角から歩いてみると、そこに別の世界が広がっていると感じられることがあります。先人の教えも、今までとは違う観点から考えてみると新たな道筋が見えてくることもあります。過去の畏敬の念をいだきながら、光さす未来への道をこれからも歩み続けていただきたいと思います。



看護の「道」をともに歩む——70周年に寄せて——

山梨県立大学看護学部 学部長 泉 宗美恵

同窓会設立70周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり看護の道を歩み続けてこられた同窓生の皆さまのご尽力に、深く感謝申し上げます。

本学は、これまで県内に数多くの看護人材を輩出し、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与してまいりました。現在も、県内各地のあらゆる現場において卒業生が活躍しており、その恵まれた環境の中で、学生たちは実践に根ざした学びを積み重ねています。

社会の変化が著しい今、看護の役割もますます多様化しています。こうした時代であるからこそ、変化する社会の中で、看護の本質を見失うことなく、教育と実践、研究を進めていくために、同窓会の皆さまと手を携え、力を合わせて発展をめざしていきたいと考えております。70年という重みを胸に、新たな歴史を紡ぐために、共に未来へ向かって一步を踏み出しましょう。

末筆ながら、皆さまのますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



道の途中で立ち寄れる同窓会

山梨県立大学大学院看護学研究科 研究科長 宗村 弥生

今年度より研究科長をしております宗村弥生と申します。白樹会の皆様には、看護学研究科の教育・運営にご支援を頂き、誠にありがとうございます。

同窓会は70年目を迎えられること、心よりお祝い申し上げます。この学び舎で、看護の道を目指して共に学び、それぞれの道へ出発する学生を見送ってきた同窓会の70年の歴史の重みを感じます。これからも、卒業生たちが道の途中で安心して立ち寄れる場であり続けてください。

さて、大学院は今年度、博士前期課程・後期課程にあらたに7名の入学生を迎え、現在38名の大家

学院生が学んでいます。博士前期課程では看護学領域全ての専門分野が開講し、修了生たちは、県内外において大学院で培った研究力と実践力を生かして活躍しています。博士後期課程は開講5年目となり、院生たちは研究に邁進しております。

今後とも同窓会長の山下清子様はじめ、会員の皆様からのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。



70周年のあゆみ

【「白樹会」命名の由来】

池田キャンパスには、以前多くの白樺があり県立高等看護学院時代学院祭が「白樹祭」であったことから、長年なじんだ名称にちなんで命名されました。

【同窓会の経緯】

昭和28年4月	県立看護学院設立(看護学科3年課程)
昭和30年4月	保健婦学科を併設(8カ月課程)
昭和30年11月	保健婦学科第1期生卒業し、同窓会を設立
昭和31年3月	看護学科第1期生卒業し、同窓会を設立 (以来看護学科及び保健婦学科同窓会はそれぞれに活動を継続。その間、保健婦学科は1年課程に変更、看護学科に2年課程が併設される。)
平成7年2月	同窓会の統合により県立高等看護学院同窓会設立
平成7年4月	県立看護短期大学開学
平成9年7月	県立看護短期大学の卒業生を会員に迎えるため、会則改正、名称を同窓会「白樹会」とする
平成10年3月	県立看護短期大学第1回生卒業し、同窓会に入会
平成10年4月	県立看護大学開学 県立看護短期大学が県立看護大学短期大学部に名称変更
平成10年7月	県立看護大学開学に伴い、卒業生を会員に迎えるため会則改正
平成13年3月	県立高等看護学院閉院
平成14年3月	県立看護大学第1回生卒業し、同窓会に入会
平成14年4月	県立看護大学大学院開設
平成16年3月	県立看護大学大学院第1回生修了し、同窓会に入会
平成18年4月	県立大学に統合し、県立大学看護学部となる
平成20年3月	県立看護大学短期大学部閉校
平成20年5月	県立大学看護学部の卒業生および大学院研究科の修了生を会員に迎えるため、会則改正
令和3年4月	県立大学大学院後期博士課程が開講
令和6年10月	県立大学大学院生の在学生を会員とするため、会則改正
令和7年4月	助産学専攻科が開設される



北新町校舎での入学式



池田校舎体育館での入学式



短期大学入学式



戴帽式



白樹祭

70周年のあゆみ



研究棟入り口の「しだれ桜」(平成20年)

【同窓生の数】

5,368名(2025年6月現在の会員数)

県立看護学院

看護学科 1,933名

保健学科 924名

県立看護短期大学 873名

県立看護大学 330名

県立看護大学大学院 22名

県立大学 1,216名

県立大学大学院 70名



2004年 聖灯祭



2024年 聖灯祭



現在の「しだれ桜」



県立大学1期生 入学式



短期大学部卒業集合写真



深窓

絵画の寄贈について

望月昇画伯のご遺族から、絵画を寄贈していただきました。

同窓会は、運搬設置費等を支援し、大学へ絵画を寄附いたしました。

講堂前のホワイエと101講義室前に飾っております。

ご来校の際、ぜひご覧ください。



何処かへ

テーマ「道」

看護師

成長する看護、成長する私

山梨県立中央病院 副院長兼看護局長

山梨県立高等看護学院 看護第1学科33期生 石 倉 晴 美



現施設に勤務して37年目となります。現在の素直な気持ちは、「看護の仕事を選んでよかった」という誇りと、看護の仕事への深い尊敬です。

25歳で第1子を出産した際、子どもは多くても3人と考え、「私はジェネラリストとして活躍する」と決意しました。そして、20年先を見据えた計画的な部署決めと「1部署5年経験する」という目標を立てました。臨床の現場では、多くの患者さんからの「ありがとう」という感謝の言葉や、上司や同僚の支援によって、人として成長する貴重な機会をいただきました。

その後、中間管理職となり、「看護ケアを管理する役割」を与えられました。「好かれなくてもいい、信頼される管理職になろう」と覚悟を決め、迷いながらも良質な看護の探究に邁進しています。

看護はやりがいのある仕事であり、必ず困難な瞬間がありますが、「困難を乗り越える力」を持つことで、人間としても成長できる素晴らしい職業です。これらの経験を通じて、看護の素晴らしさを次世代に伝承し続けていきたいと思っています。

助産師

看護の道を選び歩み続けてよかったこと

健康科学大学 産前産後ケアセンター センター長

山梨県立高等看護学院 看護第1学科30期生 坂 本 富 子



思い起こせば、42年前に県立高等看護学院に入学し、初めての寮生活を体験し、集団生活のマナーを守ることや同期と夜遅くまで話し込んだこと先輩にご指導を頂いたこと等々、つい昨日のこのように思い出されます。

看護の道を選択して、様々な患者さんのニーズに対応するために学習を積み重ねてきました。しかし、自分の中で答えが見つからないことがあり、悩み悶々として一念発起して県立大学大学院看護学研究科看護学専攻にチャレンジして学び直そうと思いました。このことが今考えると自分の中で大きく変化したことだったと思います。良き仲間と出会い共に頑張れたことが今に続いていると思います。看護が好きであったからこそ、自分の足りないことを学ぼうと思えたと思います。一生付き合っていきたいと思う人に出会えたことも良かったです。

これから、看護の道を選んで進む若い皆様に、自分が良いと思うことを信じて歩むと必ず、明るい未来につながると思います。

現在、私は、38年11か月勤めた県立中央病院を令和6年3月に退職し、健康科学大学、産前・産後ケアセンターで働いております。ここは、県と27市町村の委託事業で宿泊型の産前産後ケアを提供しています。子育てをしているお母さん方が、自分らしく子育てができるように、子育ての答えは一つではないのでそこを支えていきたいと思っています。一人の人間が育つには親が寝る時間を割いて一生懸命育てています。そのような中で、赤ちゃんからもうパワーと親の愛の広さと時には切なさを感じています。今の時代背景だからこそ、看護の力が求められると感じています。

保健師
看護師
養護教諭
助産師

保健師

保健師としての道

仲間につなぐ

山梨県福祉保健部健康増進課 健康増進課長
山梨県立高等看護学院 看護第1学科32期生

保健師学科33期生
知見圭子



山梨県立大学看護学部同窓会『白樹会』70周年おめでとうございます。私は、住民の健康の保持増進を目指す保健師に憧れ、保健師学科入学時の『保健師としての道』が開かれた感動と期待を今も鮮明に覚えています。保健師として、母子保健や生活習慣病予防、医療提供体制整備等、その時々の健康課題の解決を目指す取り組みを進め、特に令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の対応では、迅速な企画力と実行力が求められ、苦しいなかでも県民の命を守るという目標に向かい、関係者と共に推進したことは保健師として価値ある経験となりました。現在、健康増進課長として、県民の健康寿命の延伸を目指し施策強化に取り組んでいます。先輩保健師の方の努力と成果により、今の立場で活動ができることに深く感謝し、後進にこの道を引き継げるよう精進する所存です。最後に、『白樹会』の活動がますます発展し、母校の輝かしい未来を築くことを心よりお祈り申し上げます。

訪問看護師

看護人生の道しるべ

笛吹中央病院附属おひさま在宅支援センター室長
山梨県立高等看護学院 看護第2学科11期生

雨宮栄子



新人看護師の時、定年前で夫、父親、そして職場での責任を担っている肺

がんの末期患者さんを受持しました。私が行くと「待っていたよ、昨日楽しいことあったか？顔を見て話すだけで今生きているって思うんだ」と父親のように接してくれました。亡くなった時に、奥さんから「いつものつばちゃんが来てくれるのを楽しみに待っていたのよ」と話していただき、何もできなかった私が、こんなにも○○さんから必要とされていたことに涙し、触れ合うことの大切さを○さんから教わりました。その時から、何気ない声かけができる看護師になること、そして病室を訪れ穏やかな表情で患者さんと接する看護師になることが、私の看護の原点となりました。

看護人生41年、新人看護師から看護部長そして現在もこの行動は変わることなく、見て、聞いて、触れる看護が続いています。定年を迎え、医療現場から介護現場に変わりましたが、これからも自分の看護観を磨いていきたいと思っています。

養護教諭

歩み続ける養護教諭の道

甲府市立笛南中学校
山梨県立大学看護学部7回生

石井真実



大学卒業後、私は養護教諭としての道をスタートしました。初めての教育現場に不安と

緊張でいっぱいだったことを今でも鮮明に覚えています。それでも今日まで歩み続けてこられたのは、頼りになる周りの先輩方のおかげであり、子どもたちと過ごす日々が楽しく、充実しているからです。現在まで様々なケースの児童生徒たちと出会ってきました。その中で、対応に悩んだり、これでよかったのかと不安になることもありましたが、子どもたちから「先生に話せてよかった」「ありがとう」という言葉を聞く度に、この仕事についてよかったと心の底から思います。多くの可能性を秘めている子どもたちの未来が明るく、希望に満ちあふれるものになるよう、今私にできることは、児童生徒たちが健康に安全に楽しく学校生活が送れるように支えることだと思っています。これからも養護教諭としての道を歩み続け、児童生徒たちの明るい未来のために全力を尽くしていきたいと思っています。

専門看護師

ささえられて、つながる道

国民健康保険 富士吉田市立病院
山梨県立大学大学院看護学研究科修士課程
(平成24年度修了)

小池 賀津江



70周年おめでとうございます。2012年山梨県立大学大学院修士課程を修了、翌年

がん看護専門看護師を取得いたしました。当時山梨県立中央病院の看護部・9A病棟の同僚看護師の皆様、大学院では梶原先生・前澤先生をはじめ多くの先生方に、働きながら学べる環境の向上のため長期履修制度導入や柔軟な受講時間など多大な支援をいただきました。皆様に感謝申し上げます。

がん看護専門看護師としてがん相談支援センター（県立中央病院・富士吉田市立病院）に通算14年間在籍し、患者さん・ご家族への「がんとともに生きること・苦悩」相談を通じ意思決定に携わりました。2024年には看護協会の看護師の離職・定着の調査で県内60病院61名の看護師との面談の機会を得て、「働き続けられる環境とは何かについて学ばせていただきました。今、皆様に恩返ししたい思いから、がん看護専門看護師の経験を生かした「ひとりでもまない場」(café囲cacommo 山中湖)を開設し多くの人と、つながる道を歩んでいきたいと思っています。

認定看護師

私の看護路

〜これまでとこれから〜

山梨県立北病院 主任看護師

山梨県立看護大学2回生

藤森 千晶



私の看護の道は心臓外科・泌尿器科4年から始まり、精神科で18年が過ぎました。看護

は奥深く難しいですが、同時に楽しさも感じています。日々の看護を通じて患者さんから多くのことを学び、成長させていただきました。自分自身を客観的に捉えられるようになったことも、その成長の一つです。コロナ禍を経験し、患者さんや職員にとって安全で安心できる環境を整備したいとの思いから、感染管理認定看護師という専門の道を目指しました。認定看護師としてはまだ知識も経験も十分ではありませんが、自己研鑽に励み、感染対策を迅速かつ適切に実践できるよう努めていきたいと考えています。将来的には県内精神科病院とも連携し、精神科領域全体の感染対策向上に繋がるような活動も行っていきたいです。これまで関わってくださった患者さん、共に働くスタッフ、そしていつも応援してくれる家族への感謝の気持ちを忘れず、これからも看護の道を歩み続けていきます。

博士前期課程

看護の道〜出会い・学び〜

山梨県立大学看護学部 助手

山梨県立大学大学院看護学研究科

(令和6年度修了)

塩津 裕也



私の看護の道は、祖父の担当だった訪問看護師さんの勧めから始まりました。大学卒業後は地元静岡の病院に就職し、泌尿器科や小児科、耳鼻科などで勤務しました。実践の中で、認知症高齢者とのコミュニケーションやケアに悩むことが多く、認知症看護について学びを深めたいと思い、本学の認定看護師教育課程に入学しました。ここでは同じ目標を持つ大切な仲間がで

き、共に実習や試験を乗り越えることができた。修了後、臨床に戻ったものの、高齢者への理解を深めたいという思いから本学大学院への進学を決意しました。看護研究の経験が無い状況でしたが、先生の温かい指導や大学院生の仲間と看護を語り合うことで学びを得ることができました。これまでの看護の道を振り返ると、一つ一つの選択、そしてそこでの出会いが今の自分を形成していることを実感します。今後も様々な選択をしていくと思いますが、選ぶ道が少しでも社会貢献につながればと思っています。

助産師学専攻科

私が決めた道

山梨県立大学助産学専攻科1年

山梨県立大学看護学部18回生

北畑 姫愛



私は今年大学を卒業し、新たに開設された助産学専攻科に進学しました。小学生の時に助産師になると決

めてから、ようやく助産師としての道に進めることに喜びを感じています。大学に入學してから、これまでの道は私が思い描いていたものとは全く違うものでした。改めて、助産師としての道に進む勇気をくれた友達や先生方、家族に感謝しています。そして、自分の弱さと向き合い、努力した自分にも感謝しています。

これからの一年間は大変なことも多いと思います。そのような時は同じ志を持って入学した同期達と協力し、励まし合いながら、乗り越えていきたいです。そして、全ての母子と家族が笑顔で過ごせるようにしたいという思いを叶えるために、対象者の気持ちに寄り添いながら、適切なケアを行い、信頼される助産師になりたいです。

この初心を忘れず、助産学専攻科の第一期生として、本学の新しい道を切り開いていくように日々学びを深めていきたいです。

模擬患者養成プログラム参加者募集

患者役(SP)になって看護学生の教育に貢献しませんか？

日時：2025年9月2・3・10・17日 全4回 10時～12時

場所：山梨県立大学池田キャンパス

プログラムの詳細や応募方法はQRコードから



模擬患者養成研究会 スパイス甲府 新藤裕治

2024年度事業計画

- 1) 通常総会開催
- 2) 講演会
- 3) 同窓会誌『白樹』の発行
- 4) 山梨県立大学看護学部行事への参加・協力
- 5) 在学生への支援活動
- 6) 白樹会寄付金等の受入れ
- 7) 白樹会ホームページによる広報活動
- 8) 正副会長会議の開催
- 9) 70周年記念講演会準備
- 10) その他
- (1) リレー・フォー・ライフジャパン2025甲府への支援・参加
- (2) 山梨県立大学大学院看護学研究科生(大学院)への支援

2024年度 同窓会役員

	氏 名	所属・役職名
名誉会長	早 川 正 幸	公立大学法人 山梨県立大学 学長
名誉会員	松 野 かほる	元山梨県立看護大学 学長
	林 滋 子	元山梨県立看護大学・山梨県立看護大学短期大学部 学長
	望 月 勲	元山梨県立看護大学短期大学部 学部長
	松 下 由美子	元山梨県立大学看護学部 学部長
	佐 藤 悦 子	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長
	流 石 ゆり子	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長
	村 松 照 美	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長
顧問	名 取 初 美	元公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長
	泉 宗 美 恵	公立大学法人 山梨県立大学看護学部 学部長
会長	山 下 清 子	自宅
副会長	秋 山 奈菜子	株式会社ななすみ 訪問看護ステーションすみ
	渡 邊 優	国民健康保険 富士吉田市立病院
監事	齊 藤 けさ子	自宅
	小 川 忍	山梨県看護協会

2024年度 同窓会事務局

	氏 名	所 属
事務局長	横 内 理 乃	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
書記	田草川 純 子	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	鈴 木 幸 子	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
会計	勝 俣 晴 加	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	武 田 真 弓	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
事務局員	飯 嶋 怜 奈	健康科学大学看護学部
	石 井 真 実	甲府市立笛南中学校
	石 川 文美子	山梨県立あけぼの医療福祉センター
	市 川 佳 子	山梨大学医学部附属病院
	一 瀬 美 帆	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	井 出 和 子	医療法人 のだ内科クリニック
	大久保 知 香	山梨県福祉保健部国保援護課
	大 森 泉	クローバースマイル訪問看護ステーション
	齊 藤 寿 美	株式会社ななすみ 訪問看護ステーションすみ
	高 取 充 祥	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	中 込 洋 美	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	萩 原 沙 南	山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター
	深 沢 壮	山梨県立中央病院
	三 澤 みのり	公立大学法人 山梨県立大学看護学部

白樹会一般会計決算報告 (2023.10 ~ 2024.9)

収入総額	3,139,190	円
支出総額	1,993,105	円
差し引き残額	1,146,085	円

2024年度に繰り越し

〈収入の部〉 (単位 円・△減)

項 目	2023年度予算額	2023年度決算額	増 減	備 考
繰 越 金	1,059,044	1,059,044	0	
入会金及び終身会費	2,000,000	2,060,000	60,000	20,000×103人
祝 い 金		20,000	20,000	
利 息	10	146	136	
合 計	3,059,054	3,139,190	80,136	

〈支出の部〉

項 目	2023年度予算額	2023年度決算額	増 減	備 考
会 議 費	150,000	75,570	△ 74,430	
事 業 費	1,950,000	1,646,520	△ 303,480	
事 務 費	155,000	83,055	△ 71,945	
賃 金	50,000	10,000	△ 40,000	
慶 弔 費	50,000	10,000	△ 40,000	
予 備 費	704,054	167,960	△ 536,094	寄贈絵画の運搬設置費、最終講義（退職者）への生花
合 計	3,059,054	1,993,105	△ 1,065,949	

白樹会特別基金会計決算報告 (2023.10 ~ 2024.9)

収入総額	5,011,142	円
支出総額	0	円
差し引き残額	5,011,142	円

〈収入の部〉 (単位 円・△減)

項 目	2023年度予算額	2023年度決算額	増 減	備 考
前 年 度 繰 越 金	5,010,803	5,010,803	0	
利 息	42	339	297	
合 計	5,010,845	5,011,142	297	

〈支出の部〉

項 目	2023年度予算額	2023年度決算額	増 減	備 考
被災学生等支援費等	200,000	0	△ 200,000	
合 計	200,000	0	△ 200,000	

細項目等はページ構成の関係ですべて記載できないため、白樹会ホームページより総会資料をご確認ください。 会計 勝俣晴加 武田真弓

今年度の事業

【学生支援事業】

チューター活動支援
支援費を学部長へ贈呈



聖灯祭支援
支援費を聖灯祭実行委員長へ贈呈



合格祈念鉛筆
合格を願って



【大学院生支援】

院生の支援費を贈呈



【卒業記念品贈呈】

えんじ色の免許証入れを卒業生へ



【国際交流支援活動】

ラオスでの活動支援



【環境支援事業】

年間を通じて花壇の植え替えや水やりなど整備を行っています。



【広報活動】

入会ガイダンス

会長より新入生・在校生・大学院生へ



リレーフォーライフ



最終講義のご報告



2025年3月10日に平尾百合子教授、阿部美穂子教授の最終講義が行われ、会長より花束贈呈

認定看護師を目指しませんか！

山梨県立大学認定看護師教育課程では感染管理分野と認知症看護分野の認定看護師の育成をしています。いずれも特定行為研修を含んだカリキュラムとなっております。5月から3月上旬までのおよそ10か月間となります。北海道から沖縄までの方が履修し修了



認定看護師教育課程長 前澤 美代子

しております。

興味関心のある方はどなたでも参加できるオープンキャンパス&カフェ、受験に向けた受験相談会も通年で実施しています。ぜひホームページをご覧ください。

ホームページ:

https://www.yamanashi-ken.ac.jp/midwifery_midnec/cnec/



助産師になる夢を実現させる場所がここにあります

山梨県立大学 母性看護学・助産学 平田 良江

本学における助産師教育は平成13年度に開始され、令和6年度で27年目を迎えました。その間140名の卒業生を輩出し、それぞれが山梨県内外の病院や診療所、行政、教育機関等で活躍しています。

この27年間の教育は学部内で看護師教育と並行して行ってきました。しかし、社会のニーズや高度化した医療に対応するため、本学における助産師教育の在り方について検討を重ね、令和7年4月に1年コースの「助産学専攻科」を開設するに至りました。助産学専

攻科では豊かな人間性、適切な判断力と高い助産実践能力によつて母子と家族に適切なケアを提供できる助産師を育成します。募集人員は7名で内、山梨県内枠を設けています。助産師になりたい方は是非とも受験をご検討ください。詳しくは大学ホームページをご覧ください。



「リサイクル募金」ご協力をお願い

本学では、「山梨県立大学リサイクル募金」を実施しております。

読み終えた本・DVD・不用品等をご提供いただくと、運営会社「リサイクル募金きしゃぼん」での査定金額が山梨県立大学への寄附となります。ご寄附は学生の支援に役立てられています。

図書館入口に回収BOXが設置されていますが、インターネット・電話から直接申込も可能です。

同窓会会員様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はホームページをご確認ください。

<https://jp.kishapon.com/yamanashi-ken/>

山梨県立大学看護図書館 TEL 055-253-9429



70周年記念企画

メッセージ写真 大募集!!

企画内容 〓 創立70周年を記念して、個人・学生時代の友達同士・職場の同窓生仲間との写真にメッセージを添えて、通常総会と記念講演の間にスライドショーで放映します

応募方法 〓 「写真（横向きで撮影した写真）」と「30文字程度のメッセージ」を事務局までお送りください

詳しくはホームページをご覧ください

山梨県立大学看護学部 同窓会 白樹会
hakujuu@yamanashi-ken.ac.jp



山梨県立大学大学院 看護学研究科

2026年度博士前期課程・博士後期課程募集

詳しくは、「山梨県立大学大学院 看護学研究科」を検索

<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/gsnursing/>



白樹会基金、ご寄付を
よろしくお願いいたします。

ホームページをご覧ください。

山梨県立大学看護学部 同窓会「白樹会」

2025年度 通常総会

70周年記念講演会

看護の楽しさを
一緒に感じてみませんか？

私たちのめざす看護

日 時：2025年10月4日（土）12:30～総会 13:15～講演会

会 場：山梨県立大学看護学部 看護実践開発研究センター

第1部 講演会

テーマ「覧古考新から招く山梨県立大学の未来
—伝統知の継承と改革への挑戦—」

講 師：山梨県立大学 理事長・学長 早川 正幸氏

第2部 シンポジウム

テーマ「同窓会70周年～私たちのめざす看護～」

座 長：佐藤 悦子氏（前山梨県看護協会 会長）

シンポジスト：

山本美代子氏（元白樹会 会長、元高等看護学院 教員）
佐藤あけみ氏（医療法人 徳洲会羽生総合病院 看護部長）
齊藤亜弥子氏（山梨県立中央病院 がん相談支援センター 看護師長）
櫻本 秀明氏（近畿大学医学部 病院運営部看護学部設置準備室 教授）
若尾 彰子氏（甲斐市 市議会議員）
泉宗 美恵氏（山梨県立大学看護学部 学部長）

当日は総会からの参加をお待ちしております



出席の方は、左記のQRコードまたは同封のハガキにてお知らせください。

お問い合わせ ☎055-253-7780（平日9時～17時）✉hakujuu@yamanashi-ken.ac.jp

編集後記

今年度の会誌は、白樹会70周年の記念号とし、テーマを「道」としました。表紙は、高等看護学院、看護大学短期大学の閉校誌の写真を使用させていただき、70年の歴史を表現しました。どの時代が、皆様にとって懐かしい母校でしょうか。

会誌を作成する過程では、改めて70年という歴史を感じ、母校の発展、同窓生の活躍を願う機会となりました。写真は白黒からカラーへ、フィルムからデータへと移り変わっています。写真のデータ編集があつという間にできる現代から、この先の未来はどうなっているのでしょうか。皆様にとって、過去、現在、そして未来の看護の「道」は、どのようなものでしょうか。さらに、多くの方々の「道」を聴ける機会を楽しみにしています。総会・講演会でお待ちしております。

事務局員一同、母校の発展と学生への貢献のために努力して参ります。今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員一同